

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	令和3年度 川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第11回第1層協議体兼地域ケア推進会議)		
事務局(担当課)	福祉部 介護保険課		
開催日時	令和4年3月16日(水)15:30~16:50		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委 員	吉岡 健一、田口 巳義、清水 和恵、岡 留美、井口 尚子 吉川 泰光、成徳 明伸、片岡 大雅、西本 裕子、細海 里恵 貞松 喜代美	
	事 務 局	介護保険課 福丸課長、松永課長補佐、山本主査	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 協議事項 (1)人材確保に向けて参加者を増やしていくことについて (2)令和4年度生活支援体制整備部会での協議について 3. その他 4. 閉会		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和3年度川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」第11回第1層協議体兼地域ケア推進会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長補佐の松永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆さま方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、さっそく協議に入らせていただきますので、以降の議事進行は、部会長にお願いいたします。</p>
部会長	<p>本日も皆様の活発な意見交換、ご協議をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員の出席については、委員14名のうち、本日ご出席をいただいておりますのは、12名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき本日の部会は成立しております。</p> <p>傍聴の方は、いらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴の方はお越しではありません。</p>
部会長	<p>では、議事に入ります前に、事務局から資料の確認をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。本日は当日配付資料のみとなっております、「生活支援体制整備部会次第」と「資料1 前回のグループワークの意見のまとめ」をお配りしております。</p> <p>皆さま、資料はお揃いでしょうか。</p>
部会長	<p>それでは次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>次第の2 協議事項「(1)人材確保に向けて参加者を増やしていくことについて」、細海部会員からご説明をお願いします。</p>
第1層 生活支援 コーディネーター (以下、 第1層 SC)	<p>それでは、人材確保に向けて参加者を増やしていくことについてご説明いたします。</p> <p>資料1「前回のグループワークの意見のまとめ」をご覧ください。</p> <p>こちらは、前回のグループワークでの皆様のご意見をまとめさせていただいたものでございます。皆様のご意見を踏まえて、部会長から、「参加者を増やすための広報を検討する必要がある」と総括していただきました。</p> <p>広報については、これまでも市の広報誌に地域活動への参加啓発に関する特集を掲載することについて取り組んでいるところですが、新型コロナウイルスに関する情報掲載を優先することなどにより、見送られているのが現状です。</p> <p>令和4年度も広報誌への掲載依頼をする予定でございますが、特集が組めると決定した時点で皆様にお知らせし、掲載内容などについてご協議いただきたいと思います。</p>

おります。

介護保険課では、市の広報誌への特集記事の掲載に代わる、参加者を増やすための広報として、先ほどの介護保険運営協議会にてご説明しました「福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ>」をご提案いたします。以降は、略称である「かわナビ」とさせていただきます。

「かわナビ」を立ち上げるために、第2層生活支援コーディネーターは担当地区の社会資源を、第1層生活支援コーディネーターは全市を対象とした活動や、公民館、コミュニティ会館等での活動、また、高齢者が日常生活を送るうえで必要な支援を行う民間事業者やNPO法人の取組みを「社会資源」として把握し、登録作業に取り組んでまいりました。

今後も引き続き、地域の多様な団体の活動を「かわナビ」へ登録していくために、生活支援コーディネーターが連携して、社会資源の把握を行い、「かわナビ」への登録を促すとともに、この機会を利用し、団体同士の連携や情報共有がより一層深まるように働きかけていきたいと思っております。

また、資源情報を登録するカテゴリーに、第2層生活支援コーディネーターからの提案により、「ボランティア活動者募集」を作成しております。

このカテゴリーには、その他のカテゴリーへの分類に加えて、特にボランティア活動者や地域のサロンなどへの参加者、公民館登録グループ、自治会や老人クラブなどの会員を募集している際に分類しますので、情報掲載だけではなく、人材確保に活かすこともできます。

「かわナビ」を各団体の支援者をはじめ、活動者の皆様や地域の皆様に利用していただくことで、例えば、地域包括支援センターの職員やケアマネジャーが介護サービス事業所を紹介したり、自宅に多くの高齢者に「地域で開催している健康体操や居場所・サロンを紹介する」といったことや、民生委員や地区福祉委員などの支援者の方が、「将棋が趣味なら、公民館の将棋グループへの参加を促す」といった、医療機関や介護保険などの公的なサービスと、地域住民などが主体となって活動するインフォーマルな活動を横断的に検索し、具体的な提案をしていただくことが可能となります。

地域福祉活動などのボランティア活動に興味はあるが、一歩を踏み出す機会がない方に、この「かわナビ」を知っていただくためにも、ぜひ皆様に広報していただき、普及・啓発をしていただきたいと思いますと思っております。

第1層としては、コミュニティ協議会連合会、老人クラブ連合会、民生委員児童委員協議会連合会に出席させていただく予定にしており、スマートフォン講習会の受講者へも広報していきます。

第2層としては、各担当地域で地区福祉委員会をはじめ、様々な団体へ広報していきます。

パソコンやスマートフォンを利用しますので、具体的な操作方法も含めて啓発していただければ、なかなか活用に結び付かないと考えております。

そこで、皆様の所属団体において、どのような機会に「かわナビ」について広報していただくことが可能なのか。また、第1層もしくは第2層のコーディネーターが協力させていただけることなどについて、ご意見をお伺いしたいと思っております。

説明は以上でございます。

部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは委員の皆様から「かわナビ」の広報について取り組めることなどについてご意見をお願いします。</p>
部会員	<p>前回もお聞きしましたが、改めてご質問させていただきます。一番大きな目的として、この協議体では、何をめざし、話し合いを続けていくかというところを教えてくださいたいと思います。</p>
第1層 SC	<p>生活支援体制整備事業ということで、地域の中で自分らしく暮らしていくためには、何をサポートしていけばいいのかというのが、めざすところだと思っております。</p> <p>それが様々な形でのサポートになると思っておりますが、ただ暮らしていけるだけではなく、自分らしく暮らしていける地域にするために、何をサポートできるかを協議していくことが、生活支援体制整備事業のめざすところであると思っております。</p>
部会員	<p>「何をサポートできるか」でなく、「何が必要か」から始まる形になると思います。</p> <p>第2層協議体から上がってきた地域課題—中学校区、小学校区といったところの困りごと—に対して、「市全体として取り組むことなのか」「地区の中で解決すべき内容なのか」「非常に個別的な問題なので、情報共有はしますが、解決に向けては当事者がやるべきことなのか」といったところを整理してもいいと思います。</p> <p>人材確保については前回の会議から出ていたかと思いますが、人を集めても、特にする事がないという状況なので、ボランティアに登録とか希望をされても、何もフォローがないという形になっております。</p> <p>私の記憶違いかもしれませんが、「こういうことをするために、こういう人材が何人必要だという形にしていけない」という話が出ていたかと思いますが。</p> <p>「人材確保に向けて参加者を増やしていくことについて」なので、人材確保の広報活動をする人等を増やすのか、それとも純粹に人材を集めるのかというのが、はっきりしていないと思います。</p> <p>実際のところ、「こういった事があって、こういった人材が欲しいです」とか「人手が足りなくて非常に困っている」という事が、第2層協議体から出ているのでしょうか。</p>
第2層 SC	<p>前回もそういった話しがあつたと思っておりますが、各地区が抱えている個別の話ではなく、第2層協議体としてご提案しているのは、困りごとというより、実際に動いているグループもあるかと思いますが、「社会貢献しよう」とか「社会参加しよう」という思いのない方たちをいかに動かすかというところで、心が動かないと体は動かないので、そこへいかに訴えかけられるかという大きな話になります。</p> <p>また、「福祉教育が大事だね」という話や魅力というキーワードが出ていたと思います。</p> <p>あと、意見のまとめにも出ておりますが、口コミやチラシは大事だけれども、つながりがないと、そもそもそういった活動には参加しないですとか、Win-Winの関係が必要といった様々な意見が出ていたかと思いますが。</p> <p>第2層協議体として、これらに対してどういった事が出来るかを考えたときに、簡単なことではないし、単発的に出来ることでもないと思います。いわば社会を変えるぐらいの規模で考えないといけない。欧米では、寄付や地域貢献は当たり前のような風土だと</p>

と思いますが、今の日本はそういう風土ではございませんので、高齢者の意識を変えたり、これからの世代の意識を変えたりということをしていくためには、何ができるのかということはこの第1層協議体で考えていきたいと思っております。

部会員

ということは、第2層協議体としては、今差し迫って困っている事はないので、ゆっくりと思考、思想を変えていきたいというお考えでしょうか。

第2層 SC

第2層圏域でできることはもちろんやっております。もちろん人材不足、高齢化、固定化というのは、どこの地区も切実です。それに対して、地区でできることはやっております。

ただ、「人の心に訴えかける」という取り組み方を根本的に変えるようなことは、やはり地区だけが頑張ってもできないことですので、市単位で何か動かすことができないかと思っております。

部会員

私も第1回の会議から出ている訳ではございませんが、第2層協議体からの具体的な困りごとが提示された記憶がございません。途中から参加しているからなのかもしれませんが、「こういう事例があり、この部分が困っている」ですとか「こういう事例がこの地区で頻発しているので、こういった問題を第1層協議体で考えてもらいたい」という話しでなくて、「人が足りない」という漠然とした部分だけで会議をしているので、モヤッとした会議がずっと続いていると感じます。

前回も発言がありましたが、「これだけ会議の回数を重ねているのに、全然話しが進んでいない」と感じられたのも、そういった部分があるからだと思います。

その発言を聞いて、「ごもつとも」と思う部分があると思いますし、新しい方が入ると切り口が変わって鋭い質問も出るので、非常によいことだと思います。そういう意味では、実際に第2層協議体で話し合っている内容ですとか、地区ごとでの困りごとについても共有したいと思いますね。

今回、いきなり出して下さいと言われても、多分出ないとは思いますが。

第2層 SC

前任の部会長がおっしゃっていた言葉が印象に残っておりまして、「ボランティアの町宣言」ということをおっしゃっていました。よく「子育て日本一の町」等といったスローガンを自治体が掲げられると思いますが、例えば川西市で「ボランティアの町宣言」をしたらどうだということをおっしゃっていたのですが…。

部会員

申し訳ございません。私の言い方が悪いのかもしれませんが、私が申しあげたいのは「ボランティアの参加者を集めても、参加者に何をしてもらうのか」ということです。

もちろん、おっしゃることは理解しておりますが、話が大きすぎると思っております…。

第2層 SC

それについて話し合うのが第1層協議体だと認識しているのですが。

部会員

大きな視点と地域の今の切実な課題の両方について、協議する場だと思います。地域の課題を全市的に共有して、全体的にどのようにフィードバックしてそれを協議して変えていくかという話だと思います。

ですが、私も何回かしか参加しておりませんが、割と具体的な話をしている、今回も

「かわナビ」の活用についてということですので、「市全体で進めていくためにはどうすればよいか」という点では具体的だと感じますが、「個々の団体でどう広げていくか」という観点からすると、協議事項としては納得します。

もう一つは、今回の資料として配付されております、「前回のグループワークの意見のまとめ」をどう活用されていくのかなと思いました。

せっかく意見を出していただいているので、例えばこの意見の中からどうしても必要なことを検討していくとか考えていたのですが、そうではなくて、これは読み置くだけになるのであれば、「前回の会議で話し合ったのにもったいないな」と思います。

ですので、いきなり「かわナビ」の活用方法について考えていきたいと思いますという流れでしたので、確認させていただきました。

「かわナビ」の活用方法について、皆さまと考えていくのも必要なことですし、先ほどの会議で「いずれ誰もが使えるようになるので、時間をかけてやっていけばいい」とおっしゃっていましたが、私は今、困っております。今、解決していかないと困ります。

だから、時間のある方は、時間のあるときにやっていただいたらいいと思いますが、地域が今、困っておりますので、今、考えないといけないと思います。

全体的に、どのように会議を進めていくのかを疑問に思ったので、お聞きしました。もともとの進め方があるのであれば、その進め方に賛同します。

部会員

地域包括の担当ということで参加しておりますが、所管の担当課長でもございますので、お話ししてもよろしいでしょうか。

第1層協議体の目的は、五つあると思っております。

一つ目は「地域のニーズと資源の状況の見える化と問題提起」でございます。

これについては、先ほどもご意見がございましたが、第2層協議体から提供された具体的な困りごとに関して共有する。それを「問題提起をする」ですとか「見える化」として、皆様が共有する場になるということだと思っております。

二つ目は「多様な主体」でございます。

本日も皆様にお集りいただいておりますが、その方への協力依頼や働きかけという点。

三つ目は「関係者のネットワーク化」でございます。

このようにお話しさせていただくのも、ネットワーク化の一つだと思っておりますし、「かわナビ」による関係性づくりもとても重要なことだと思っております。

四つ目は「めざす地域の姿、方針を共有する。意識を統一する」でございます。

これに関しては、先ほど第2層生活支援コーディネーター等が発言されていた内容のところになります。

五つ目は「生活支援の担い手の養成、サービスの開発」でございます。

地域のニーズ、「何が困っていてどんな資源が不足しているのか」を見える化し、問題提起がされるから、地域に必要な資源が生まれるということを話し合うのが、第1層協議体だと思っております。

ですので、第1層協議体で話し合うために、ニーズの見える化や問題提起をしていただく第2層協議体の役割が重要になっております。第2層協議体は地域の実情に応じた支え合いの地域づくりについて協議するのが、目的だと思っております。

そのため、「第2層協議体の中での困りごとは何ですか」というご意見に対して、本当にそのとおりだと思いますし、それがないと、具体的に川西市の中で「何が出来ていない

のか」「何を作らないといけないのか」「どこに作ればいいのか」「どんな形がいいのか」ということを協議できませんので、第1層協議体の目的が達成できません。

先ほどもご意見がございましたが、課題によっては1年後すぐに来るかもしれないし、5年経ってもできないかもしれないので、目標設定をすることは重要だと思いますし、それが現状できていないと、私自身も思っております。

また、その辺りがグラグラしているのは、この第1層協議体の目的の、「何の部分の話をしているか」が紆余曲折するからだと思います。

ですので、今回の協議事項に関しましては、前回のグループワークで出た意見も含めますと、「かわナビ」を使って、とにかく人に「知ってもらう」「参加してもらう」「分かってもらう」取り組みからはじめましょうということでご説明させていただきましたが、言葉足らずで伝わってなければ申し訳ないと思います。

総括して、「かわナビ」を活用していただくとともに、先ほど申しあげたような、多様な主体の協力依頼、働きかけという具体策をやっていると、私は理解しております。

「かわナビ」はツールですので、使いこなさないと活用できません。ですので、それぞれの団体へ広報活動される中で、団体によって活用方法は様々だと思いますから、その団体に合った活用方法を模索していくということが、目的で言いますと「協力依頼の働きかけ」となりますが、これについて第1層協議体が協議しているということになります。

そして、「めざす地域の姿や意識の統一」というのは、第2層生活支援コーディネーターがおっしゃったことだと思います。

それがないとグラグラしてしまうということであれば、例えば次の会議で協議する必要があるということでしたら、議題に挙げれば良いと思います。

次に、令和4年度は何をしましょうかという議題を挙げておりますが、さきほどご意見が出ておりました、「具体的に何に困っているのか」「何かサービスが生じる必要があるのか」「システムが変わるのか」といったことだと思いますが、具体的に出了た課題について協議する機会が作られたら、第1層協議体の中で全市的な取り組みの成果につながるのではないかと考えております。

先ほども申しあげましたが、課題に対する成果が現れるのが1年後なのか5年後なのかは、課題内容によりますので、そのあたりは理解しているつもりでございます。

以上でございます。

部会員

色々ご説明いただいてありがとうございます。

そもそも協議体ということですので、何も審議して結論を出さないといけない場ではないと思っておりますので、協議するだけで大丈夫だと思っております。

ですが、協議する中で煮詰まってくれば、やはり賛否を問う必要はあると思っておりますので、その点よろしく願いいたします。

先ほどもおっしゃられたように、課題によっては何年もかかるかと思いますが、高齢者も何年も待ってられない現状もございますので、この協議の中で審議していただきたいと思っております。

それで実際にこの「かわナビ」ですが、先ほどの会議から思っておりましたが、「川西」の「ナビ」ですよね。だから「かわナビ」とつけられたと思いますが、一瞬「カーナビ」と思って混乱いたしました。

ですが、もう決められましたので仕方がないと思っております。

そしてこの「かわナビ」ですが、一元化するという点で本当によいシステムだと思っております。様々な資源から情報を得て集約することは、大変苦労したと思います。

ですが、福祉委員長をしている立場から申し上げますと、1点、危惧していることがございます。

私は委員長として憩いの広場をやっておりますが、当時地域包括からお電話がありまして、「憩いの広場に行ってもいいですか」と連絡あり、「どうぞきてください」とお返事させていただきました。

来ていただいたのはよいのですが、連れてこられた方が「いつまで預かってもらえるのでしょうか」と第一声に言われました。憩いの広場というのは、皆さまがお話をして、人と人のつながりが欲しくて来られています。

ですので、「預かるのではなくて、ここで楽しく過ごしていただけたらよいと思っております」とお答えしたら「私は忙しいので帰ります。何時に来たらいいですか」という感じで帰られました。

おばあちゃんでしたが、皆さんでコーヒーを飲みながら、「どこにお住まいですか」という感じで話しかけても全く喋らないですし、何をしても喋らないということがございました。

ご本人に対して、「可哀そうだったな」と思っております。私も一生懸命努力しましたが、なかなか心を開いてくれませんでした。

「ご本人は悲しかったのではないかな」と思うと、本当にかわいそうになりまして、そういう利用をされる場合もあると思っております。それが2回ありまして、先日も地域包括から依頼がありました。

今のところは地域包括だけですが、「かわナビ」を活用して情報が公開されることで、地域包括以外の方—実際見られるのは、お父さん、お母さんからお願いされて、「ややこしいな」という感じで閲覧操作ができる、比較的若い方や40、50歳代の方—からの連絡が増え、「良いですよ」と言ったら、先ほどの事例のようにかわいそうな結果になってしまう可能性がございます。

コミュニケーションが取れない方への対応については、私たちは素人なので対応できないのが現状です。その点について、私は危惧しております。

第1層 SC

ありがとうございました。

そういった場合は、地域包括と協議していただければと思います。「地域包括からの紹介でサロンに来られた方のことで困ったことがありました」と連絡し、解決策を模索することで、その方も皆さまの輪に馴染むことができるようになると思います。

今までは、一方通行だったかと思いますが、いま申しあげた友好的な横のつながりを築ければと思っております。

部会員

そういう方を受け入れるための協議をすることについては、そのときに難しいと判断し、連絡はしませんでした。その方については、「次回も来ます」と言われましたが、結局来られませんでした。そういった事例を2回経験しています。

部会員

前回から同様のお話を聞かせていただいておりますし、ケアマネジャーからも、危惧している旨の声も聞いております。

今週の金曜日に事業所向け説明会を行います。そのときにはもちろん、使い方や

関係者用サイトの説明をさせていただきますが、一番力を入れて説明させていただこうと考えているのが、おっしゃってくださいました「連携のとり方」についてでございます。

直接その団体に連絡がいくことが望ましくないこともあると思われますので、例えば連絡先を社会福祉協議会にさせていただく。

また、連携をとるために介護が必要である等、どういった場合にどの連絡先にするかというところのご説明を、改めてさせていただきたいと考えております。

部会長

私もこの会議に参加させていただくのは3回目となるのですが、この11回目の会議の中で、今までどういった話をされてきて、このような協議内容になっているのかの深いところが理解できておりませんので、話がずれていってしまい申し訳ないと思っております。

「2025年問題」というのが一つのキーワードであると皆さまもご存じかと思いますが、「医療」「介護」「予防」「住まい」といったところは、非常に明確化しやすいです。

予防に関しては、サルコペニア、フレイル、ロコモといったところを予防するための運動教室や地域教室といった取り組みやすい内容となっております。

ですが、生活支援となりますと、幅広く、具体的であり、誰が関わっているのか、どのようにサポートしないといけないのか、それは個人でできるのか団体でできないのか、それとも地区で取り組まないといけないのかといった様々な問題がございます。生活支援とは、その人の生活を取りまとめていくものとなっております。

介護保険のようにフォーマル的にポイント的な支援で落ち着く方もいらっしゃいますし、介護保険では収まらないインフォーマルな要素も取り入れないと支援が難しい方もいらっしゃいます。そこを「かわナビ」というシステムを構築されたので、今回は「かわナビ」の中の参加交流活動において、どういう方がどういう困りごとがあって相談されて、その相談を誰がどういう活動を具体的に地域で必要としていて「どういう風に関わることができる人がいるのか」「人材を育成していかないといけないのか」「マッチングをさせないといけないのか」といった、人材確保を支援するにも人がいないというところで、まずは人材確保の流れができたのかなと思っております。

さきほどご意見が出ておりましたが、具体的にやらないといけない生活支援体制整備事業の5つのポイントについてご説明いただきました。その中での大きな流れではありますが、「かわナビ」を活用することを生活支援体制整備事業としていまでできること、「このカテゴリーに該当したときは、どのような問い合わせがあって、具体的にできることとできないことを明確化して、体制整備として必要なこととは」といったところについても、皆様からご意見をいただきたいと思っております。

部会員

まず1点目、グループワークでの意見をとりまとめたものは、これからどう活用されるのかをお聞かせ願いたい。2点目として、いまでできることを考えていくことはとても大事だと思います。並行して1年後、5年後のあるべき姿というのも議論されているということも、とても大事だと思っております。

もしかしたら私の認識が違うのかもしれませんが、「かわナビを構築する」といった協議事項を提案し、議論を重ねていくことが第1層協議体の役割で、構築したものを第2層、第3層協議体の方に活用していただけるように周知していくという形がよかった

のではないのかと思っております。

毎回部会員が集まって議論されてきたことが、全く日の目を見ないということを行っているわけではございません。個別のことも大事ですが、同じように全体のことを考える場でもあると考えておりますので、先ほどのご説明は確かにそうですが、それを踏まえてどう部会を運用していくのかというところが基本軸であるとよいと思いました。

以上です。

第1層 SC

おっしゃるとおりでございます。

この「かわナビ」を立ち上げる時に、皆さまにご説明させていただいて、議論を重ねることが一番望ましい形ではあったかと思えます。

市としてはそう思っておりましたが、諸事情がございまして、そういった順序を経ずに「かわナビ」を立ち上げることとなりました。

では、これから「かわナビ」をどう活用していくかということを考える際に、第1層協議体で協議しております人材確保についても活用できるのではないか。せっかく立ち上げたものを、皆様により活用してもらえることが第1層協議体の中で地域の活動を活性化する等のことを考える際のツールになると思っております。

早々にこの話をしたので皆様に混乱を招いてしまったかと思いますが、このツールを具体的にどのように使うことがどう良いと思われるのかを、皆様からご意見をいただきたいと思えます。

ご意見をいただき、各所属団体や第2層圏域でどのように活用できるか、例えば地区福祉委員でどう啓発することができるか、実際に啓発する際には、生活支援コーディネーターをお手伝いとして使っていただきたらと思っております。

その後、令和4年度に関して、先ほどもご意見が出ておりましたが、私たち第1層協議体で求めている、めざす姿は何なのかを決め、そこから今後の協議事項を考えます。協議する内容は1つでなくとも複数で並行して進めることも構いませんので、私たちがめざす姿の共有を図ることは大事であると思えます。

ですので、先ほどご説明させていただきました「かわナビ」のボランティア、活動者、参加者を募集するカテゴリーを活用するために、どのように地域へ広めることができるのかを、皆さまからご助言いただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

部会員

かわナビを使ってボランティア等を募集したいということでよろしいでしょうか。

第1層 SC

かわナビをどのようにしたら検索できて、どう検索したら知りたい情報を得ることができるのかを...

部会員

先ほど、ボランティアを募集したいとおっしゃっていましたが、「かわナビ」を使って募集したい。それはよいことだと思うのですが、この「かわナビ」を、誰が、どのように利用できるか。先ほどの会議でもありましたが、「かわナビ」を活用するのが難しい方はたくさんいらっしゃいます。

川西市はソフトバンクにスマートフォン講習会の実施を依頼しているとのことですが、全市的ではなく、市内には14地区の福祉委員会がありますので、地区でそういった講習会を開いたらよいと思っております。そして、その講師役を高校生に担って

いただけたらよいと思っております。もちろん、第2層生活支援コーディネーターの方でも構いません。

部会長

ボランティアをしたい人、ボランティアを求めている人、趣味の会に参加したい人、サロンに参加したい、サロンをつくりたいといったことが地域には必要だと思いますが、それをするにあたって、「かわナビ」を活用するには何が必要か、何をすればより展開できるかをご意見いただけますでしょうか。

部会員

70、80歳代になると、スマートフォンを扱うことができなくなります。今はこちらからメールをして、相手に「家族にメールの開き方を教えてもらってください」と伝えている状態です。意思疎通が取れるスピード感が電話と全然違いますので、家族間でスマートフォンの扱い方を共有していただきたいと思うことはあります。私の周りの方は、毎回家族が聞かれるのが億劫なので、電話でよいのではないかとされているそうなので、どうにかならないかと思っているところではございます。

また、パソコンを扱っている方も少ないです。私は使わざるを得ない状況でしたので、簡単な操作程度ならできますが、なかなかデジタル機器を扱うのは難しいと感じております。

部会長

貴重なご意見ありがとうございます。70、80、90歳代の元気な方がいる中で、使い方の習熟度がなかなか上がっていかないということで、年齢別ですとか、年齢に関わらず初級コース、中級コースといった形でより広めていく。そのためには、回覧であったり広報であったりをしていく必要があるのかなと思いました。

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

広めていくためにということですが、先ほど事務局のご説明があったようなスマートフォン講習会を実施されているとのことですので、それを周知していくことしかないのではないのでしょうか。

どこをターゲットにするかは考えないといけないと思います。すべての年齢層を講習会だけでフォローするのは難しいと思います。せっかく「かわナビ」を立ち上げたのですから、活用できる年齢層に活用していくべきです。先ほど言われていた70歳代以上の方については、別の方法を考えないといけないと思います。

部会長

色んな年齢層に周知していき、活用できる年齢層には活用していただく。活用が難しい方には、違った媒体を使って情報提供をしていく方法も必要であるというご意見でございました。

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

申し訳ありませんが、今回が2回目の出席となりますのであまり把握できておりません。前回のグループワークの際も、何故することになったかの経緯がわかっておりませんでした。

ですので、逆に教えていただきたいのですが、第1層と第2層協議体の違いや意味が分かっていない状態です。

あと、ボランティア支援者を募る参加者という意味合いと、人材確保がどうも紐づかない。介護支援事業所を運営している立場で申し上げますと、人材確保のハードルが、マッチングという点でけっこう高いのが現状です。人材確保をするにあたり、どこに雇われて、どう報酬が支払われるのかがよくわからないですし、とにかく簡単ではないという印象です。

なんとなくのニュアンスで申し上げますと、総合職、いわゆる正社員に近い立ち位置の方を、まずは一人雇用して、その方が指揮命令するみたいなイメージの方がよいのかなと思います。有償ボランティアの方等を動かす、「コーディネーター」という言い方が良いかわかりませんが、人を動かす中心的な人がいないと、何となくでは物事は動かないと思います。一人で良いので総合職の方を雇用して、その人を中心にどう「かわナビ」を活用して、物事を動かしていくのかという組み立て方をしないと動かないと思います。

魅力のあるそれなりの報酬がないと、この総合職をされる方はいないと思いますので、まずここが起点となって、ボランティアの方をどう集めていくのか。いろんな方からご意見をいただくのですが、やはり高齢化の影響で、若い方は仕事や子育てで忙しくて地域活動に参加できない状況です。しかも、どんどん生産年齢層も減っていくわけですから、今までと同じ視点で人を集めるという感覚では集まらないと思います。本当に魅力のあるもので、最低限のコストで運用できるようにしていかないと難しいと思います。

以上でございます。

部会長

率直な疑問や思いを発言していただきありがとうございます。

事務局の方から第1層と第2層協議体の違い、生活支援コーディネーターの位置づけについてご説明いただきたいと思います。

事務局

第1層と第2層の生活支援コーディネーターの違いということですが、第1層は市全域の生活支援体制整備について取り組んでおります。市全域といたしましても、地域性が異なる部分がございますので、川西市においては日常生活圏域については、委託包括は中学校区の7地区、第2層協議体は小学校区の14地区に分かれており、第2層生活支援コーディネーターは兼務ではございますが4名、来年度は5名になります。随時人員は増やしていけるようにと考えております。

ですので、第1層は市全域、第2層は主に小学校区ごとにある話し合いに中心となって活動していただくという役割分担をしております。

あと、中心となって動いていただく総合職の方を雇用するということですが、役割は異なりますが、効率性を考えますと、やはり第2層生活支援コーディネーターが該当すると考えます。具体的に地域のことを把握しておりますので、第2層生活支援コーディネーターが情報を集約し、課題を提示していただき、それを第1層生活支援コーディネーターが集約するという形の構造となっております。ですので、先ほどの誰かが中心となってというお話は、第2層生活支援コーディネーターですし、各々の意見を集約するのが第1層生活支援コーディネーターという形での総合職かなと考えます。

また、「かわナビ」に関してですが、もちろん周知することは大事ではございますが、この第1層協議体での協議事項となっている普及啓発の観点からですと、参加者と

人材確保が紐づかない点は、私も最初は同じように感じておりましたので、お気持ちはよくわかります。

2点申しあげますと、「参加者」となると、サロンや地域活動に参加される方と、活動を支援する側に参加する方という二つの意味合いとして取れます。続いて、「人材確保」は生活支援をする方、いわゆるボランティアをする方と、地域でのみまもりをする方や、介護保険サービスではない、ちょっとした困りごとの生活援助をされる方の人材確保という意味合いとして取れると思います。言葉の使い方が、本来の定義からすると異なるかもしれませんが。

部会員

介護サービス事業者で介護保険外サービス—自費的なサービス—をやっている事業者があります。例えば、ヘルパーが調理等をする生活のお世話ですが、介護というニュアンスでいくと、入浴介助や食事介助、通院介助といったイメージですが、生活全般の中で介護保険サービスでまかなえない部分を自費のサービスでまかなうことに近い気がしました。

例えば、人材不足とは言われておりますが、人材資源はございますので、介護事業所に呼びかけて活用してもらえた方が、新たに募集するよりも早いような気がしますので、そこを見出すアイデアを出していく必要があるかと思えます。

あと、先ほどご説明されておりました、事業所への説明会というものがあるのでしょうか。私は存じ上げていなかったのですが。

第1層 SC

3月18日にさせていただきます。補足になりますが、令和3年度の1回目の会議において、協議体や生活支援コーディネーターの説明資料をお渡ししていたのですが、お渡しできていないようであれば、お帰りの際にお渡しいたします。

また、「かわナビ」においてのボランティア募集等に関してですが、団体情報を登録するときに募集のカテゴリーにチェックしていただくことで、その旨が掲載されるようになっております。

例えば、地域活動のサロンを運営する団体と、生活支援をされている団体が「かわナビ」に登録する際に、サロンの団体は「参加者募集」、生活支援の団体は「ボランティア募集」にチェックしていただきます。そして、興味のある方がお問合せ先に連絡していただくという流れになります。人材マッチングのように、一斉にボランティアや参加者を募集して振り分けるというものではございません。

以上です。

部会長

介護保険事業所の立場として介護保険サービス外のサービスを実際に提供しているということで、そこにマッチングすることができるのではないかと、すごくよいご意見をいただきました。

人選をどうするかという課題はございますが、一つのアイデアとしては、社会資源の活用という点で素晴らしいご意見だと思います。

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

ご自身が地域福祉活動に参加したり、支援したりといった関心のある方は、「かわナビ」はすごく有効な情報収集の手段になると思います。ですので、そういった方たちへ周知する

ために、先ほどご意見に出ておりましたが、QRコード、ポスターといったものを掲示していく必要があるかと思ひます。それと並行しまして、関心のない方をどうやって取り込んでいくかというのを協議していく必要があると思ひます。

部会長

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

「参加者」と「人材確保」にどのような違いがあるかのご意見がありました。福祉委員会では、参加者の中から人材となる人物を発掘するというやり方をしております。参加者の中で、特にボランティア精神にあふれている方は見てわかります。その方に、「役員になっていただけませんか」と声をかけますと、快く引き受けてくださいます。なので、私は「参加者」と「人材確保」を切り離して考えておりません。地域活動に参加されている方の中に、自然と人材となる方が参加されていると思っております。

部会長

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

「かわナビ」の普及啓発ということで、ご意見がありましたように、ご高齢の方が使いこなすことは難しいと感じます。ですが、極論を言いますと、乱暴ではありますが、「かわナビ」以外の情報収集手段を一切なくして、「かわナビ」だけでしか情報を得ることができないとなると、必要性が生まれて使いこなそうとされると思ひます。もちろん全員が使えるようになると思っておりますが、かろうじて70歳代ぐらいまでの方が使えるようになったとしても、パソコンやスマートフォンを持っていない方はたくさんいらっしゃいますので、取りこぼしの数が多くなってしまうのではないかと。

かといって、これを併用しながらとなりますと、皆さまのご意見をお聞きして思うことは、仮にQRコードというのも重要ですが、地区ごとに第2層生活支援コーディネーターの連絡先も掲載し、サポートしてもらえる体制をつくと、仮に85歳の方がQRコードの読み取り方がわからないとか、「かわナビ」の使い方がわからないということに対しても相談できるようになると思ひます。

第2層生活支援コーディネーターの方がキャパオーバーしないかどうかは課題ではありますが、全員が使えるようにするというよりか、間接的に「かわナビ」が使えるようなサポート体制を構築してもよいかと思ひます。

以上です。

部会長

協議事項1及び2に関する事、また来年度の生活支援体制整備部会に関して、皆さまから貴重なご意見をいただきましたと思ひます。

この生活支援体制整備というのは、大事な大きな役割というのがありまして、それ以外に在宅医療との連携という柱もござひます。それはまた別の働きかけをしておりますし、認知症施策の推進も具体的に進んでおります。

生活支援体制整備の具体的な役割というのが大事であると申しあげましたが、その中には、第1層、第2層、社会福祉協議会、地域包括の方を集めて、具体的なところを進めていっているところでござひます。

ですが、コロナ禍ということもござひまして、ぐっと足を踏ん張って、変えていきたい

ところがあるけれども、なかなか活発的に活動できなかった。情報収集ができなかったというのが現実ではあると思います。

まず、「かわナビ」が立ち上がるということでございますので、関係者の方にお集まりいただいて、活用方法をご教示いただき、それをもって各地区の代表の方—民生委員、地区福祉委員、老人クラブ等—といったところへ、「かわナビ」の必要性や活用方法をご説明、ご理解いただいたうえで、生活支援体制整備の取り組みとしたいと思っております。

本日ご意見いただきました、生活支援体制整備の現状を確認していきつつも、これからのめざすべき姿を小さいことに取り組むことも大事ですが、大きいことも見つめながら何をすべきかを考えていかなないとつたいない。

そのあたりについて、来年度は具体的に進めていきたいと思っております。その中で1つ思うことは、第2層協議体の方にはご足労をおかけしますが、第2層協議体の現状について、次回発表していただくことは可能でしょうか。

それを取りまとめて、市全体として、第1層として何が課題であるかというのを捉えていきながら、具体的な筋を固めていきたいと思っております。

縦と横のつながりがないと、横ばかりだと芯がないと動かないし、全体のネットワークもつなげていかないといけません。

ここに集まっている方たちだけが理解できているのではなく、各地区の代表の方たちにも広まっていけないといけませんので、各地区の代表の方たちを集めた説明会など、今後の協議の中で必要と判断すれば実施していかないとはいけません。

そういったことも踏まえて考える材料として、第2層協議体の現状を報告していただきたいですし、第1層は他市が取り組んでいる生活支援体制整備が具体的にどのように進めているのかを事例を挙げていただきたい。

それらの情報を来年度の部会において資料として提供していただきたいと考えております。

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

部会員

地域の実情という観点から、生活支援コーディネーターを通してどう動いているのかを把握されるのはとても大事だと思いますが、地域の課題についても見えるようにした方がよいと思います。

もう1点、地域包括の高齢者の相談ごとの情報もあると思いますので、そういったものも報告で触れていただいて、市全体としての現状の課題を、次回の会議において整理していただく。

第1層協議体も、成功体験みたいな活動をしていかないと、何となく集まっているだけというのはつたいないと思います。

可能であれば、来年度は第2層協議体、地域包括支援センター、地区福祉委員会といった団体から困りごとを提供していただき、全市的にどういった支援が必要であるかを検討していく形にしてみてもどうでしょうか。

また、先ほど言えませんでしたでしたが、今までは第2層協議体等に相談していたことが、「かわナビ」を活用することで、セルフ的に困りごとが解決するといったことにつながればと思います。

最後に、地域の困りごとや第2層協議体、地域包括から意見を集約したらと

発言しましたが、次回の会議までには可能でしょうか。

部会員

地域包括としましては、7つの委託包括がございまして、令和3年度の地域課題の集約については、地域包括で会議を行う際に、各自とりまとめるようにしておりますので、集約は可能でございます。

ですが、生活支援体制整備ではない地域課題もございまして、この場で発表できるものを選んでおくようにいたします。

部会員

おそらく、第1層、第2層といった体制が大分前からされていると思いますので、第2層の困りごと等についてはずっと収集されていると思います。

なので、第2層生活支援コーディネーターが取りまとめなくても、市がすでに把握されているかと思えます。その把握されてきた地域課題について、この第1層協議体で協議されてきたのだと、私は思っております。

全体的なことを申しますと、先ほどの「かわナビ」を構築するときに意見を言うのではなく、第2層協議体の困りごとを集めたら、この問題に関しては「かわナビ」が必要だという話の流れになって、「かわナビ」を構築するのがこの第1層協議体の役割だと思います。

また、遠い将来から申しますと、感染症等により地域のつながりを構築することが困難になってきたから、どうすればつながりが保てるか。この場合は介護保険に関する会議の場ですので、高齢者が集まらなくても、対面できなくてもどうすればつながれるかということに、市としてなにができるか。また、「かわナビ」で情報共有してみんなが使えるようになった先に、医療と介護が連携した個人の情報を共有できるシステムを「かわナビ」に組み込んでもらう。もちろん、地域や使い方によって「かわナビ」に合わないこともあると思いますが、将来的にそういったシステムも必要だとか。第2層協議体の困りごとを収集して協議した際にそういった体制が必要だという話になるような会議になればと思います。

部会員

本日、皆様と共有した情報をまとめていただいて、後日送っていただきたいです。

次回のときには忘れてしまっている可能性がありますので、事前に送っていただければ助かります。

第1層 SC

会議録については、市ホームページに掲載しております。

ですが、会議のはじめに前回の振り返りをした方がよいということであれば、させていただきたいと思えます。

今までの分の会議録については、市ホームページと市政情報コーナーにございまして、よろしく願いいたします。

部会長

本日は、話がグルグルと回ってしまいましたが、来年度は具体的に生活支援体制整備事業として、川西市として何をねらいとしてやっていくのか。そのために、いまはコロナ禍ということで、新たに第2層協議体において、生活支援での課題や困りごとをお聞きしたい。そして、地域包括としての困りごとについても現状をお聞きしたい。地域包括は地区診断をされているので、全体ではなく、生活支援体制整備に関する課題

や問題点を抜粋して発表していただきたい。

第1層協議体としては、他市の現状を報告したうえで、川西市として何を目的として生活支援体制整備の方向性を固めていくかを決めていきたいと考えております。

では次に、次第の3「その他」です。次回の開催について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

今後の本部会のスケジュールについてでございますが、日程等詳細につきましては、部会長と協議の上、改めてお知らせいたします。

部会長

それでは、本日の令和3年度川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」(第11回第1層協議体兼地域ケア推進会議)は、以上をもちまして閉会といたします。

部会員の皆さまには貴重なご意見をいただきありがとうございました。

本日は、長時間にわたりありがとうございました。